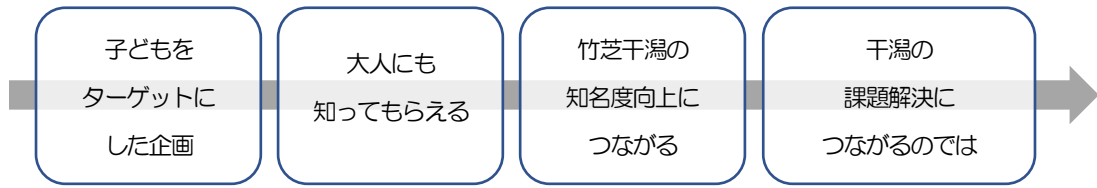


【発表2】 「ひがたにやってきた」～ビジネスを通じた環境保全への取組～

東京都立芝商業高等学校 ひがた部

【研究仮説】



1. はじめに

(1) ひがた部とは

私たちが所属しているひがた部は、芝商業の横に位置する複合施設内の人工干潟（以下竹芝干潟と表記）で活動する有志団体だ。干潟部の主な活動は外部企業の方などをアドバイザー（講師）として干潟について学習し、その知識を活かして「自分たちが竹芝干潟のために何ができるのか」を考え、実行していくことだ。

(2) 竹芝干潟について

①干潟の抱える課題

環境省や水産庁の調査によると全国における干潟面積は1945年以前から1998年の約50年のうちに4割近く減少している。現在2023年で、この調査の1998年から25年経過しているため、さらに干潟が減少していることは想像に難くない。また、東京湾の干潟面積は1945年から8割近く減少している。

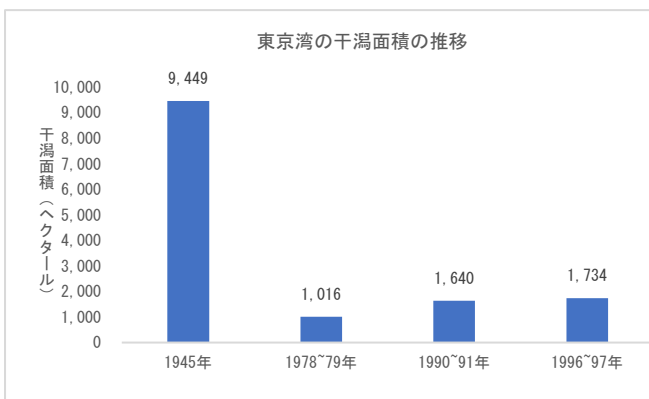


図1 東京湾の干潟面積の推移 水産庁資料より作成

②竹芝干潟の分析

私たちが初めて竹芝干潟に行ったのは2022年の7月のことだ。その時初めて干潟の生き物にふれ、海洋汚染の話を書き、「この場所を守っていきたい」と感じた。て「私たちができることは何か」を考えるため、竹芝干潟の現状についてSWOT分析を行い具体的な活動を計画することにした。

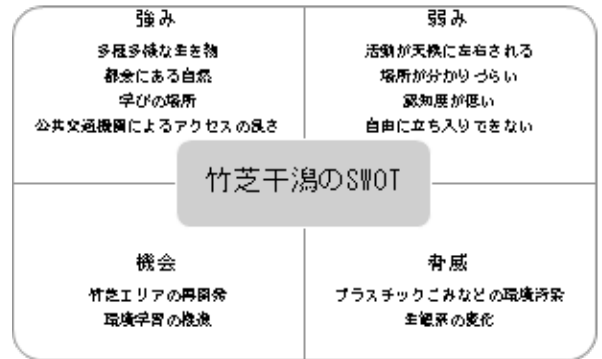


図2 竹芝干潟のSWOT分析

2. 企画と実践

分析をもとに、弱みを解消し、強みや機会を活かした取り組みをすることで、干潟の課題解決につながるのではないかと考えた。また、子供を対象にした企画を実践することで、「干潟」についても幅広く知ってもらえると仮説を立てた。

企画内容は、天候に左右されたり、自由に立ち入ることができないという弱みを解消するために絵本を提案することにした。

オリジナル絵本の作成

2 干潟を訪れた子供とオリジナルキャラクターの話



干潟に迷い込んだ子どもにふさがたはかせが竹芝干潟について紹介する

絵本には干潟の醍醐味である、探すや触るが絵本で体験できるように仕掛けを取り入れ、オリジナル仕掛け絵本を作成した。

3. 課題

絵本の製作は干潟を知ってもらうための第一歩であり、研究仮説が立証されたわけではない。竹芝干潟の魅力を伝えて知名度を上げるとともに全国の干潟についても知ってもらう取り組みを今後も継続していきたい。そして干潟を通して一人でも多くの人に環境を守る意識を芽生えさせたい。